

春の庭に咲くヒヤシンスの花を、全体ではなく花だけにぐっと近づいて撮影してみると、普段とはまったく違う姿が見えてきます。花壇で眺めているときには、ひとつのまとまった花のかたまりのように見えるヒヤシンスですが、こうして一つ一つの花を拡大してみると、柔らかく湾曲した花びらが重なり合い、小さなラッパのような形をした花が密集していることがよくわかります。まるで別の植物を見ているかのような、不思議な印象さえ受けます。

ヒヤシンスは球根植物で、通常は前年の秋から冬にかけて球根を植えておくと、寒さを経たのち、早春になると鮮やかな花を咲かせます。春の訪れを知らせる代表的な花の一つで、花壇だけでなく鉢植えでも楽しめる身近な植物です。また、ヒヤシンスの大きな魅力の一つが、その芳香です。花に顔を近づけると、さわやかで少し甘い香りがふわりと広がります。特に室内で咲かせると、その香りは部屋全体にやさしく漂い、春の空気を運んできたかのような心地よさを感じさせてくれます。

ヒヤシンスは水栽培でも育てることができるため、理科の観察や家庭での園芸としても人気があります。専用の容器に球根をのせ、水に根を伸ばさせるだけで、比較的確実に花を咲かせてくれるため、初心者でも育てやすい植物の一つです。

ただし注意点もあります。ヒヤシンスの球根の表皮には刺激成分があり、人によっては触れた際に皮膚のかゆみやかぶれなど、アレルギー反応を起こすことがあります。球根を扱うときには手袋を使うなど、少しだけ気をつけると安心です。

美しい姿と芳しい香りで春を知らせてくれるヒヤシンス。その小さな花を近くで見つめると、自然の造形の精巧さに改めて驚かされます。

